

平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる	
政策	130	水と緑を活かした、美しい景観をつくる
施策	131	まちなみに地域ごとの特色を反映させる
施策の目標	地域ごとに、区民が愛着をもてる個性と風格のあるまちなみが広がり、区外からもその美しいまちなみを楽しむために多くの人々が訪れています。	

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
墨田区のまちなみが美しいと思う区民の割合	%	30	-	-	-	-	42.1

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
公共サイン設置数	箇所	68	69	69	69	70

3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>-----</p> <p>・東京スカイツリーの開業に合わせ新たに策定した公共サイン整備マニュアルに基づき、必要な公共サインの整備を行うことができた。</p> <p>・地域住民との協働で取り組みが進んでいる亀沢地区においては、積極的に良好な景観形成を推進することが必要である。</p>

4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>各地域の特色を生かしたまちなみを創出するため、地区計画や景観計画の制度を有効に活用し、適切に誘導を行う必要がある。</p>
<p>-----</p> <p>【今後の具体的な方針】</p> <p>・地域の特徴や魅力を活かしたより良い景観づくりに向け、景観形成のルールづくりのための誘導、支援を行っていく。</p> <p>・歩行者にとって快適な公共サインとなるように、適切な維持管理と情報の更新を行っていく。</p>

事務事業名	都市景観形成促進事業		所管課・係	都市計画課 まちづくり支援担当・景観まちづくり担当
施策	131	まちなみに地域ごとの特色を反映させる	連絡先	03-5608-6266
予算書名称	都市景観形成促進事業		執行実績報告書ページ	162

1 事業の概要

都市景観形成事業は、平成2年2月に策定された「墨田区都市景観形成計画」に即した景観形成事業として開始した。平成4年3月に「公共サイン整備マニュアル」を策定し、平成4年度から公共サインの整備と維持管理を行っている。その後、ユニバーサルデザインや観光まちづくり等の観点から、平成21年度に新たに「公共サイン整備マニュアル」を策定し、整備を行っている。また平成元年度にJR両国駅東口擁壁に修景画、平成4年度から6年度に彫刻等(まちかどアート)を設置しその維持管理を行っている。	事業開始年度	平成2年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	歩行者、区内を回遊する来街者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	・公共サインを適切に配置し、必要な情報の提供 ・定期的な巡回点検及び清掃の実施による適切な状態の維持	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	・区民及び来街者等が駅等の主要施設から公共施設、観光施設等へ安全に安心して移動できている ・清潔に保たれたまちかどアートによって個性のあるまちづくりが進められている	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	公共サインの数	箇所	目標値			70
			実績値	69	69	70
成果指標 (目的に対する指標)	まちかどアートのメンテナンス数	箇所	目標値		1	1
			実績値		1	1

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

・東京スカイツリーの開業に合わせて新たに策定した「公共サイン整備マニュアル」に基づき、必要な公共サイン整備を実施してきた。今後は、歩行者に快適な公共サインとなるよう、適切な維持管理と情報の更新を行う。

・まちかどアートについては設置から20年以上が経過し作品の一部に経年劣化が見られることから、平成26年から年1作品ずつ(計6作品)メンテナンスを実施する計画としており、平成27年度については2作品目の補修を行った。また、両国駅東口の擁壁修景画については、点検及び加筆修復作業を毎年継続して行っている。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	都市計画費	目	都市計画費	
27年度 歳出予算額	8,938	27年度 歳出決算額	8,363	27年度 執行率	93.6%	28年度 歳出 予算額	37,384
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>・両国駅東口擁壁修景画について、区民から落書き修復等のメンテナンス実施の要望をいただいている。 ・都市景観に愛着が持てるようになるためには、長期的な視点での取り組みが必要である。 ・事業を休止すると、両国駅東口修景画については劣化がさらに進行する恐れがあるため、継続する必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>・まちかどアートについては、平成27年度までに6作品中2作品のメンテナンスが完了した。今後も、年1作品ずつ計画的にメンテナンスを実施していく。 ・まちかどアートは設置から20年以上経過し、地域に根付いた景観の一部となっていると考えられる。 ・両国駅東口擁壁修景画については、両国が東京オリンピック・パラリンピックの会場になっていることから、気運を盛り上げるためのしかけとして活用を図っていく。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>・東京都仕様の観光サインと同様の事業のため、サインの配置や掲載情報について連携を図っている。 ・両国駅東口擁壁修景画については外壁下地自体の劣化と汚損が進行しており、メンテナンス費が増加傾向にある。</p>				
(4)現状と課題	整備済みサインの維持管理及び掲載情報を適切に管理していくための仕組み作りが必要である。また両国駅東口の擁壁修景画は面積が大きいためメンテナンスが追いついていないのが現状である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区民及び来街者に適切な情報を提供することで、区内を快適に歩けるよう公共サインの整備及び適切な維持管理をする必要がある。両国駅東口擁壁修景画は完成後10年を経過した頃から、落書きに対する修復作業や色褪せた部分への加筆修復作業を実施しており、部分的ではあるが毎年継続して加筆修復作業を行う必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	多言語化については国や東京都の考え方が平成26年度に新たに示されたことから、区のマニュアルについても準拠することし、5年に1度程度の張替の際など機会を捉え修正していく。両国駅東口擁壁修景画は対象面積が大きいため、部分メンテナンスを毎年行っても修復が追いついていない状況である。外壁下地自体の経年劣化も進行していることから、今後は大規模修復作業が必要と考える。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	無
	要旨	無

作成年月日：平成28年6月9日

事務事業名	景観まちづくり推進事業		所管課・係	都市計画課 景観まちづくり担当
施策	131	まちなみに地域ごとの特色を反映させる	連絡先	03-5608-6266
予算書名称	景観まちづくり推進事業		執行実績報告書ページ	163

1 事業の概要

景観法(平成17年施行)に基づく景観行政団体となって実効性のある景観まちづくりを進めるため、平成19年度に景観の基本方針である墨田区景観基本計画を策定した。平成20年度に墨田区景観計画原案の作成、墨田区景観条例を制定・公布し、平成21年度に景観行政団体に移行、墨田区景観計画を施行している。	事業開始年度	平成19年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民、事業者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
平成21年度より施行している墨田区景観計画に基づいた景観まちづくり 景観に関心のある区民と協働 で行う啓発活動 特色ある地域についてはきめ細やかな景観誘導の推進	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
地域ごとに区民が愛着を持てる個性と風格のあるまちなみが広がり、区外からもその美しいまちなみを楽しむために多くの人を訪れる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	景観フォーラムによるシンポジウム実施 (シンポジウム実施回数)	回	目標値	2	2	2
			実績値	1	1	1
成果指標 (目的に対する指標)	景観フォーラムのシンポジウム参加者を増やす	人	目標値	100	100	100
			実績値	68	46	59
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
景観に対する関心を高めていただくため、区民の自主的な活動に対して継続的に支援を行っている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	都市計画費	目	都市計画費	
27年度 歳出予算額	4,074	27年度 歳出決算額	4,044	27年度 執行率	99.3%	28年度 歳出 予算額	8,554
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<ul style="list-style-type: none"> まちづくり団体等から景観まちづくりに関する提案や要望をいただいている。 景観に対する関心を高め、より良い景観まちづくりを展開するため、今後も事業を継続する必要がある。 事業を休止すると、景観まちづくりの意識が根付かず、無秩序なまちなみになる恐れがある。 				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<ul style="list-style-type: none"> 前年度より周知範囲を拡大した結果、参加者が増加したので、今年度も周知範囲を拡大し参加者増をめざす。 すみだ景観フォーラムシンポジウムにより、区民の景観まちづくりへの関心を高めることで地域にふさわしい景観の創出につながる。 				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<ul style="list-style-type: none"> 景観計画に基づき良好な景観形成を推進している中で、連携は必要だが統合は不可能である。 都市計画手続きに関する業務が発生するため、前年度より増加となる。 				
(4)現状と課題	景観まちづくりだけでなく、観光まちづくりの視点においても屋外広告物の適切な誘導・規制が必要。また、地域住民との協働で取り組みが進んでいる亀沢地区は、積極的に良好な景観形成を推進することが必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	区民の景観に対する関心を高めるため、今後もすみだ景観フォーラムシンポジウムを継続的に開催し、区民との協働で景観まちづくりを進めていく必要がある。また、都市景観に与える影響の大きい屋外広告物については、一定のルール化を図り適切に誘導する必要がある。
今後の方向性(見直しの視点)	地域住民との協働で取り組みが進んでいる亀沢地区については、地区計画の一部変更や景観計画の一部変更(景観形成重点地区の指定)の手続きを進め、きめ細やかな景観まちづくりを推進する。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	